

すこやか

80

2020.02

～地域になくてはならない病院になる～

特集② | 専門職対談「認知症患者への支援とは」

- 連携クリニックの紹介「鈴木診療所」
- イベント・お知らせコーナー
- フォトギャラリー「100年いきいきフェスタ」



「特集①」

「現代社会の抱える認知症ケアへの取り組み」
神戸百年記念病院が考える認知症疾患医療センターの役割

ごあいさつ “2020年を迎え”

皆さまには、爽やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、旧年中は、当院にご厚情とご支援賜り、誠に有難うございました。職員一同心より御礼申し上げます。

当院は昨年、病院改革元年と銘打ち、明治40年創立以来の伝統を重んじつつも、“いま”病院に何を求められているかを再考し、様々な取り組み、改革を進めてまいりました。その結果、救急受け入れ件数の倍増はじめ、より多くの方々にご利用頂き、改めて地域に根ざした急性期病院としての責任を噛み締めております。今後も24時間365日、安心、安全かつ高度な医療を提供する事によって、地域の方々の健康を守ってまいります。

また急性期医療を過ぎた患者さまに対して、従来の地域包括ケア病棟に加えて、昨年9月には新たに“神戸百年記念病院附属 なが訪問診療クリニック”を開設しました。住み慣れた地域で自分らしく生活する、という国の推し進める地域医療構想への対応機能を強化し、在宅復帰後の安心を提供いたします。

さらに健康相談や公開講座、市民参加型イベント“100年いきいきフェスタ”などを通して地域の方々々と未病の段階から常に寄り添い、健康維持・啓発活動にも一層注力し、地域一体となって健康街づくりに努力していきたいと思っております。

「健康に関わるすべてが神戸百年記念病院にある」とすべての方に信頼され、満足頂けるよう、職員一同、全力で努力を続けてまいりますことをお誓いいたします。

本年もどうぞ宜しく願い申し上げます。



理事長
田中 岳史

旧年中は、地域の皆さま、地域医療関係者の皆さま、大変お世話になりました。

2020年、ついにオリンピックイヤーを迎えました。一流のアスリートが全身全霊をかけ戦う姿に、新しい感動が生まれ、私たちにも大きな力を与えてくれます。今から夏が楽しみです。

さて、昨年2019年の4月より神戸百年記念病院の院長に就任し、救急の最前線にも立ち、体制強化を行ってきました。地域の救急隊の皆さまにも私たちの取り組みをご理解いただき、受け入れ件数を拡大することができました。あらためて感謝申し上げます。

また、日頃お世話になっております地域クリニックの先生方にもご挨拶をさせていただきましたが、地域の中核病院としての当院への期待や、要望など貴重なお話も頂戴することができました。今後もさらなる協力体制を築いていけるよう努力してまいります。

冒頭オリンピック・アスリートの話を書きましたが、私たち職員一同は医療人として、病気や怪我で悩む患者さま、そのご家族に対し、安心・安全な医療サービスを提供して行かなくてはなりません。“地域になくてはならない病院”として、地域の皆さまに寄り添い、支え、力となり、信頼されるように日々取り組んでまいります。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



院長
朝田 尚宏

特集 ①

認知症疾患 医療センター

「現代社会の抱える 認知症ケアへの取り組み」

～神戸百年記念病院が考える認知症疾患医療センターの役割～
皆が幸せになれる環境を整えていきたい



Interview

認知症疾患医療センター

副センター長 兼 精神科 医師 南 辰也

Q 現代社会が抱える認知症。南先生が取り組んでいる認知症ケアのポイントはありますか？

認知症ケアは、医療と介護がお互いを理解することから始まる

私は以前も神戸市内の精神科単科の病院に勤務していました。また、非常勤医師として別のクリニックより訪問診療も行っていました。患者さま個人のお宅だけでなく、高齢者の方、認知症の方が複数いらっしゃる高齢者施設などへの訪問も多かったですね。

介護職の方からすると、やはり限られたリソースで利用者の方のケアをしていくわけですから、認知症の方のBPSD*を少しでも抑えたいと考えます。確かに薬物治療の内容によっては、BPSDを抑制することはできます。でも安易にそれを行ってしまうと、認知症の

方ご本人はとても辛い状態になります。ですから私の診療方針としては、認知症の方のBPSDと、介護される方（ケアをされる方）の心身の負担、それぞれを軽減できるような治療も検討しながら、介護する方に一人ひとりの最適なケアの方法を伝えていきます。具体的には、「こういう風にやったらもっと上手くケアができる」「敢えて鎮静しなくても、対応できるケアの方法」などの認知症ケアのポイントをお伝えしていく、というものです。すると介護職の方も「確かにそうですね」と、医療者としての見解を尊重してくれるようになります。

認知症ケアというのは、認知症の方を中心として、医療のことが分からない介護者と介護のことが分からない医療者とが、お互いを理解することが必要なのだと思います。

※暴力や暴言、幻覚、妄想、せん妄、失禁などの行動・心理状態



認知症疾患医療センターとしての役割とは？

本人の周りも含め、皆が幸せになれるような環境を整えていくことが重要です。その一環で、病院で認知症サロンを企画し開催しています。

以前は認知症といえば、診断をつけるところまでが医師の役割、ということもありました。しかし現在の神戸市は、当認知症疾患医療センターに対し、それ以上の役割を求めています。医師の方も、認知症と診断するだけではなく、地域の人にどれだけ関わっていけるか、対応困難事例や色々な精神症状がある方、家族背景が複雑な方、社会的な事情などの要素を含めて対応していくことが必要なのです。認知症として生きていくためにたくさんの人と関わる必要性に迫られている方、こうした方たちに積極的に関わっていく、かかりつけ医が深く介入しにくいケースでも、認知症疾患医療センターではどんどん介入して、本人だけではなく、本人の周りも含めて皆が幸せになれるような環境を整えていく、これが私たちの目指しているところです。



当院では、神戸初の「認知症疾患医療センターをもつ総合病院が開く認知症サロン」を実施しはじめました。前述のように、認知症の方へのケアを考えると、医療と介護が連携することは必須です。地域の福祉や介護関連の事業所と密に連携をとりながら、皆で一人の認知症患者さまをしっかりと支えていく体制、まずはこれをつくるのが重要です。

でもそのもう少し手前、認知症の方やそれを支えるご家族の方が、もっと気軽にちょっとした悩みや困りごとを相談できる場を作りたいと、私は考えています。世の中にこれだけ認知症の方がいらっしやれば、同じ悩みや困りごとを抱えている方は、たく

認知症疾患医療センターの役割

認知症疾患医療センターでは、認知症の診断を行い、日常生活の状況や、他の身体疾患等の状況等も踏まえ、総合的に評価を行うとともに、関係機関との情報の共有化を図り、医療、

福祉、介護の支援に結び付けていきます。診断後は、ご本人のかかりつけ医と連携を図り、日常の診療かかりつけ医が担当することが基本となります。

■ 診療の流れ



■ 専門医療相談

専門医療相談部門を設置し、認知症に関する専門知識を有する精神保健福祉士等を配置しています。この専門医療相談部門では、本人、家族、関係機関(地域包括支援センター、区役所、保健所・保健センター、介護保険事業所)からの認知症に関する医療相談に対応するとともに、状況に応じて、適切な医療機関等の紹介を行います。

■ 医療相談・ご紹介・受診について

認知症外来は完全予約制です。予約調整でご希望に添えない場合がございます。詳しくは、認知症疾患医療センター直通電話(078-681-5551)までご相談下さい。

さんいます。でも同じ境遇にいないと、なかなか周りの人に相談することも難しい。そういうところの敷居を低くして、同じ疾患で困っている人同士が情報を共有し、こういうことはこんな風に対応していきましょうとか、こういう症状にはこういう薬で良くなりましたとか、そういう情報を共有しながら、認知症に対して理解を深め、いずれ認知症の方とご家族が同じことで困らないように、心配になったり不安になったりしないように、少しでも幸せになれるように皆でお話ししましょう、という軽い気持ちで参加できる認知症サロンを実施していきますので、ぜひお気軽に参加をいただければと思います。

Q 他にも神戸市では認知症に対する独自の制度「神戸モデル」があるそうですが、 どういったモノなのでしょう？

本当に必要な人に、神戸モデルを利用して頂きたい。

そのための啓発活動も我々の使命だと思っています。

神戸には「神戸モデル」というものがあります。これは簡単にいえば「認証症と診断された方は4つの新しい制度を利用できる」というもの。具体的には次のような制度があります。

- 賠償責任保険（最高2億円）への加入
（保険料は神戸市が負担）

- 24時間365日対応コールセンターの利用（無料）
- GPSかかりつけサービス（一部有料）
- 認知症と診断された方による事故の被害に遭われた方（全市民対象）に、お見舞金最高3,000万円が支給される

これは、神戸市内に住む65歳以上の方すべてが対象となります。しかし、神戸モデルがスタートしてから1年ほど経ちますが、まだまだ利用される方は少ないのが現状です。実際には「本当に必要な方」が検査を受けるところにつながっておらず、医療にもつながっていないというケースも多々あると思います。本当に必要な人に、このモデルの良さが届いていないのです。

認知症疾患医療センターでは今後、神戸モデルに対する啓発活動も行っていきたいと考えています。

認知症だとしても、自分なりの人生を素敵に謳歌するためのお手伝いを、神戸モデルを通して、当センターでは実施してまいります。みなさん、かっこよく年を取りましょう！

ドクター紹介
認知症疾患医療センター
副センター長
南 辰也
Tatsuya Minami



■ 専門分野
精神科
■ 認定資格
認知症サポート医／日本医師会認定産業医／臨床心理士／日本精神神経学会 精神科専門医／認知症診療医

認知症サロン 「はつらつ喫茶店～心も体も健康になれる場所～」

過去開催レポート

2019年 9月2日(月) 開催

テーマ：認知症予防も兼ねて家で出来る健康体操

南医師を含め、心理士、精神保健福祉士、理学療法士と一緒に、参加者の皆さまと日常生活の話や趣味のこと、困りごとなどをテーマにディスカッションをしました。

2019年 11月18日(月) 開催

テーマ：お体の健康相談や普段の食事の栄養相談

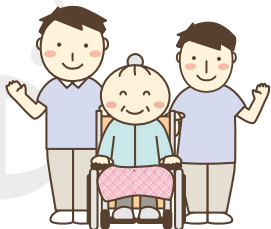
マロンケーキやドリンクでリラックスしながら、世間話やご自身のお身体の相談、もの忘れのこと、食事の相談などを参加者の皆さまとお話をしました。



「認知症患者への支援とは」

対談者

精神科・認知症疾患医療センター 公認心理師 厚坊 浩史
 精神科・認知症疾患医療センター 精神保健福祉士 篠原 隆宏



認知症になっても安心して暮らしていけるまちづくりをより推進するため、神戸市は2019年1月末より、認知症の検診や精密検査の費用を助成する「認知症診断助成制度」を開始しました。同年4月1日からは、認知症と診断された人が起こしてしまった事故や損害に関する賠償責任の費用を支給する「認知症賠償責任保険」や契約した位置情報端末を持っていれば、認知症状などで家を離れて行方不明になった場合にも、警備会社がかけつけて保護をする「GPSかけつけサービス」なども始まりました。これら通称、神戸モデルが運用されてはや1年近くになります。

厚坊・以下(厚) 受診の動機付けとして非常に機能していると思います。神戸市の想定通りかどうかは分かりませんが、当院も昨年より明らかに患者さまが増えましたね。

篠原・以下(篠) 受診患者さまが増えたとしても、まだまだやらないといけないことはありますね。「認知症の人にやさしい街作り」というネーミングがあるからこそ、取り組みは幅広いものでないといけないと思うんです。

(厚) 幅広い取り組みとは？

(篠) 患者、家族の相談支援をされていて思うのは、福祉制度の活用知識について個人差が大きいと思うんです。純粋に知らない人もいるし、自分たちで抱えこんでしまう人もいます。もっと皆で分担できたらいいのになと思うんです。

(厚) 色々な支援職種を含めて登場人物が増えることに抵抗がある人もいますよね。医療相談は、医療側と介護側の中継地点になっていると思うのでその整理を求められますね。

(篠) だからこそ今、何に困っているのかをきちんと把握する必要があると思うんです。地域資源や福祉資源など、もっと普及・啓発ができればと思います。各々の必要性に適した資源、どの資源から活用するかという優先順位など、医療相談では様々な目線から検討する必要があります。

1 認知症患者の支援について

(厚) 患者さまが検査を受けたときの葛藤って大きいと思うんですよ。「こんな幼稚なことを聞かれるの?」「テストを受けたことを忘れたい」「まともに扱われないのでは?」「そっとしておいて欲しい」とか。だからこそ検査室では「ようこそ来てくださいました」という声かけは全員にしているし、検査後には「計算、お得意ですか?スムーズに答えておられましたね」といった声かけも行っています。

(篠) 心理検査は最初に行いますからね。そこで緊張がほぐれたら、その後の診察もスムーズにいく印象があります。

(厚) 「病気かどうか」に意識を向けるよりも「今の生活をどう維持するか、一緒に考えましょう」という姿勢が大切だと思います。

2 認知症の周辺症状(BPSD)について

(厚) 僕はBPSD*という発想があまり好きではありません。なぜなら「すべての症状が認知症によるもの」といった誤解を与えるからです。例えば服薬拒否の患者さまは、認知症だから薬を拒んでいるのではなく、機能低下によって不安や恐怖を訴えることが難しくなっているんですよ。

※暴力や暴言、幻覚、妄想、せん妄、失禁などの行動・心理状態



(篠) 入院患者さまにもいるように思います。

(厚) 患者さまには「お薬を飲みたくないという気持ちがあるんじゃないか?」と考えることができるか。飲みたくないなら、その気持ちを知りたい。そこを聴かないと何もわからない。そして最後に「どんな効果なら飲んでもいい?」と尋ねる。ここまでを共感しないと、信頼関係は結べないと思います。

(篠) もの盗られ妄想の患者さまもいます。

(厚) 私たちは警察ではないので、患者さまには心に寄り添った関わり方をします。「家族を疑うことは辛かったのでは?」「なくしたものが大切だったんですね」など。家族を疑うことは、いくら認知症であっても罪悪感があるはずです。

(篠) 分かってもらえた実感が大事ですね。

(厚) 「あなたは元々人を疑うような人じゃない」というメッセージを送ることで、患者さまの尊厳を守ることができると思います。安心を与えることで訴えが消えてなくなることも多いですね。

3 運転免許の返納

(篠) 昔は「大変なことになる」と言い聞かせていましたが、今は「運転ができないわけではないが、事故のリスクが上が

る」、つまり加齢のせいにしたほうが受け止めが良いと思います。「認知症じゃないなら自分で判断できますね」と言いつつ、免許の思い出を聞く、初めてのドライブ、楽しかったドライブの話等をする、表情が豊かになります。

(厚) 患者さまが不本意な判断をしないといけないとき、受け止めてくれる支援者との関係が必要なんだと思います。

4 認知症患者への支援

(厚) 僕は患者さまや家族に「認知症だからやってしまったことは?」と聞きます。多くはクロスワードやパズルと答えますが、「認知症の不安をかきけすためにやるのでは?」と思うんです。何も根拠はないのに。

(篠) 逆に「認知症じゃなかったら、やっていたこと」を聞いてみると良いですね。「難しいことに無理して挑戦してないか?」とか。とかく患者さまの自信が下がっている印象があります。

(厚) 認知症があるから、と心配になっていて、本来の生活と全く違うことになっている。

「どんな高齢者になりたい?」「年齢以上のことをしようとしていないか?」こんなことを日ごろから想定したいですね。

(篠) 自分が今まで楽しんできていたことを思い通りに楽しめる環境が「やさしい街」なんだろうと思います。



左) 厚坊 浩史
右) 篠原 隆宏

神戸市認知症疾患医療センター 第16回 合同研修会

入場無料
定員
700名

令和2年

2月23日(日)

開会 13:30～16:30 (受付開始:13:00～)

会場 神戸新聞 松方ホール

神戸市中央区東川崎町 1-5-7 神戸情報文化ビル 4階

対象者：認知症医療・介護・福祉等の関係者の方並びに一般市民の方

Program

演題 1

「介護落語 ～笑いは幸せを呼ぶ～」

所属:よしもとクリエイティブ・

エージェンシー

笑福亭 鶴笑



演題 2

「医療と介護、それぞれの視点からみた連携」
～関西三都市における地域性を踏まえて～

座長

医療法人社団顕鐘会 神戸百年記念病院
精神科・認知症疾患医療センター 副センター長

南 辰也

- 兵庫県神戸市兵庫区
はまの医院 院長 濱野 聖二先生
- 京都府京都市西京区 医療法人双樹会
よしき往診クリニック 院長 守上 佳樹先生
- 大阪府大阪市生野区
葛西医院 院長 小林 正宜先生

講師医師のパネルディスカッション

【研修会場】

神戸新聞 松方ホール

神戸市中央区東川崎町1-5-7
神戸情報文化ビル4階

どなたでも
ご参加できます！

参加をご希望される方は参加申込書をご記入の上、所定の窓口までお送りください。参加申込書は病院内の設置されたチラシの裏面にございます。または、ホームページよりPDFをダウンロードいただくこともできます。

〈申込み締め切り〉2020年2月14日(金)まで

※参加証の送付、参加確認の連絡は致しません。

会場の都合でお断りする場合や、変更などのある場合のみ連絡させていただきます。

【会場へのアクセス】

- JR「神戸」駅、市営地下鉄海岸線
「ハーバーランド」駅より徒歩約10分
- 「高速神戸」駅より徒歩約15分
- JR「大阪」駅よりJR「神戸」駅まで
約25分(新快速)
- 新幹線「新神戸」駅より、
市営地下鉄で「三宮」駅まで約2分、
JR「三ノ宮」駅よりJR「神戸」駅まで約5分

Access



地域医療連携 連携医療機関のご紹介

医療法人社団

鈴木診療所

【所在地】兵庫県神戸市長田区東尻池町3丁目1-2
【電話】078-682-2661
【診療科目】内科・胃腸科・リハビリテーション科
【診療時間】午前9:00～12:30 午後16:00～19:00
休診日:木・土午後、日曜、祝日

医療と介護福祉の連携で、 地域の高齢者を支える

当院は、内科・胃腸科のほか、リハビリテーションや訪問診療も行う診療所です。私は消化器内科医ですが、これからは高齢者医療が中心となります。診療所でもリハビリや高齢者福祉の必要性を感じ、開院前にはリハビリ専門病院で研修を受け、その後に第一回介護支援専門員（ケアマネージャー）の資格も取得しました。また、私自身が認知症サポート医ですので、「認知症神戸モデル検診施設」にも指定されています。

この地域にも、サービス付高齢者向け住宅や老人ホーム、グループホームなどの介護施設が増えました。近い将来は通院ではなく、施設や患者さまの自宅への訪問診療が増えていくのではないかと考えています。しかし、訪問診療や訪問看護だけでは、高齢者の健康は守れません。緊急の入院治療や手術が必要な方も増えてきますので、同じ地域の中核病院である神戸百年記念病院さんとは、密

当院では、地域の医療機関（かかりつけ医）との協力体制を強化し、地域全体として患者さまにより質の高い医療を提供していくことを目的に「連携登録医制度」を制定しています。ここでは、常日頃よりご協力をいただいている連携医療機関の紹介をしていきます。今回は、神戸市長田区の鈴木診療所、鈴木 啓文院長にお話を伺いました。



な連携をしていきたいと考えています。神戸百年記念病院さんには整形外科や外科、認知症の専門医もいらっしゃるのので、私も安心して患者さまをご紹介します。必要な時は入院し、軽快したらまたご自宅へ戻り在宅診療へ。今後も、よりスムーズな病診連携を続けていきたいと考えています。



神戸百年記念病院から

長田区の医師会理事や、医療介護サポートセンターの指揮命令をされたりと、地域医療の発展に尽力されている鈴木院長。これからの高齢化社会を見据え、いち早く在宅医療への取り組みにも力を入れており、地域医療連携のパイオニアとしていつも信頼を寄せています。多忙な毎日の中、趣味のマラソンにも力を入れていて、とても健康的で素敵な先生です！

連携登録医をご希望される医療機関様へ

「連携登録医 登録申込書」をご用意しております。ご希望の場合は、地域医療連携室（☎078-681-6250）までご連絡ください。

どれも
参加費
無料!

INFORMATION CORNER

市民公開講座

2/23
日曜日

わくわく子育て!

～親とこどもの成長を
支えるための豆知識～

講演 1 小児の成長にかかわる
骨軟骨のはなし

院長 整形外科 朝田 尚宏 先生



講演 2 スマホ育児って、どうなの
小児科 芳本 貴巳子 先生



講演 3 「発達障害」という言葉に
踊らされていませんか?
公認心理師 厚坊 浩史

時間 9:30～11:30

場所 神戸新聞 松方ホール

〒650-0044

神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸情報文化ビル4階



糖尿病教室

時間 15:30～ 場所 本館3階ロビー

2/28
金曜日

大切な薬の管理

～お薬ちゃんと飲めてますか?～

糖尿病なんでも相談会

患者さまの質問にスタッフが
なんでもお答えします!

参加スタッフ 医師・看護師・薬剤師・理学療法士・
検査技師・管理栄養士

院内コンサート

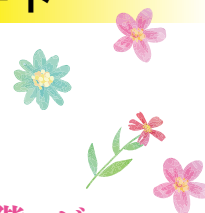
2/28
金曜日

春待ち コンサート

16:00～ 本館1階ロビー

出演 Trio SEA (トリオ・シー)

曲目 ♪ 花のワルツ ♪ イパネマの娘 ♪ リベルタンゴ
♪ 見上げてごらん夜の星を 他



神戸百年記念病院 職員の おすすめ情報



▲素材も製法もこだわって、味も抜群!
しかも 100 円が基本なのでコスパ最高!

「毎日食べたい!」と大人気! 種類も豊富で、リーズナブル! 神戸で愛されるパン屋さん!

焼きたてパン 100 円パンのパンジロー 兵庫店

神戸市に3店舗を展開する「焼きたてパン パンジロー」。今回は、兵庫警察署前の兵庫店さんにお邪魔してきました。当院の職員でもパンジローさんのパンに虜になったファンが多数います。とにかく、安くて美味しい! また種類もたくさんあるので、「次はあのパン食べたいな～」なんてつつい毎日お店に通ってしまいます(笑)

神戸市兵庫区中通道 2-3-8

☎ 078-599-5262

🕒 営業時間

7:30～19:30

📅 木曜日

🚶 地下鉄「湊川公園」駅、
神鉄「湊川」駅 徒歩5分!





KOBE 100 years

医療法人社団 顕鐘会 神戸百年記念病院

2019年11月10日(日)神戸百年記念病院の長い歴史の中で、はじめてのお祭り「100年いきいきフェスタ」を開催しました。地域のたくさんの皆さまのおかげで、我々神戸百年記念病院の職員一同も貴重な体験をさせていただきました。誠にありがとうございました。このふれあいの時間を通し、さらに地域の皆さまがいつでも元気に健康でいられるように、また必要な医療を高いレベルで提供できるように精進をまいります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



#わけトン



#ワークショップ #ミニチュアフードマグネット



#スーパーボールすくい



#見学コーナー #兵庫警察署 #兵庫消防署



#市民公開講座特別講演



#オペラコンサート #西影星ニドクター



#相談コーナー



#体力測定コーナー



#兵庫中学校吹奏楽部コンサート

出張公開講座や、健康教室など地域のイベントにも積極的に参加しています。ぜひ、【地域医療連携室】までお気軽にご相談ください。

TEL.078-681-6111
FAX.078-681-6118

医療法人社団 顕鐘会
神戸百年記念病院
〒652-0855 神戸市兵庫区御崎町1-9-1
<http://www.kobe-century-mh.or.jp>

